

本年の大豆は、苗立ちが良好で、概ね順調に生育していますが、**2回目培土がまだのほ場はすみやかに実施**しましょう。降雨による停滞水があるほ場も見られます。今後は、**排水対策**や**防除**（雑草・病害虫）等の基本技術を徹底し、生育量をしっかり確保して、品質・収量が高い大豆を目指しましょう。

## 1 排水対策

**2回目培土がまだのほ場は、すみやかに実施し、**

培土作業でできた**溝と額縁排水溝は必ず連結**し、**ほ場に停滞水がないように**しましょう。

## 2 雑草防除

培土後に雑草が多い場合は、適切に除草剤を散布しましょう。

散布方法	雑草の種類	薬剤名	10a 当たり散布量	使用時期	使用回数
畦間・株間処理 (大豆にかけない)	1年生雑草	ロロックス(水和剤)	薬剤 100~200g 水 70~100L	・本葉3葉期以降雑草生育期 (雑草草丈 15cm 以下) 収穫 30 日前まで	1回
		バスタ液剤	薬液 300~500ml 水 100~150L	・本葉5葉期以降雑草生育期 収穫 28 日前まで	3回以内

注：畦間処理の場合、吊り下げノズルを用い、薬剤が大豆にかからないように散布してください。

## 3 病害虫防除

ほ場を巡回し、病害虫の発生状況に応じ、速やかに防除を行いましょう。

防除時期の目安			対象病害虫	薬剤名	10a 当たり散布量
基本 (1回目)	莢が伸び きった頃	8月上旬 ~中旬	紫斑病→ 	Zボルドー粉剤 DL	3 kg
				ベルコートフロアブル (収穫7日前まで)	1000倍 150~300ℓ
			紫斑病 カメムシ類  カメムシが 多い場合	スミチオンベルコート粉剤 DL (収穫21日前まで)	3 kg
				ベルコートフロアブル + スミチオン乳剤 (収穫21日前まで)	1000倍 150~300ℓ
基本 (2回目)	1回目の 10~14日後	8月中旬 ~下旬	紫斑病 カメムシ類	Zボルドートレボン粉剤 DL (収穫14日前まで)	3~4 kg
				アミスタートレボン SE (収穫14日前まで)	1000倍 100~400ℓ
随時	葉焼病発生初期 ※但しシュウレイは 7月下旬に散布する。		葉焼病	Zボルドー粉剤 DL	3 kg
				Zボルドー	500倍 150~300ℓ
	葉が巻き始めたら	ウコンノメイガ (ハマキムシ) 	サイアノックス粉剤 (収穫7日前まで)	4 kg	
			プレバソフロアブル5 (収穫7日前まで)	4000倍 150~300ℓ	
	8月中旬~9月上旬 (発生時)	フタスジヒメハムシ→ カメムシ類 	ダントツH粉剤 DL (収穫7日前まで)	4 kg	
			ダントツフロアブル (収穫7日前まで)	2500倍 150~300ℓ	

注：防除の際は、農薬使用基準を必ず守るとともに、風向き等に注意し、周辺への飛散防止に努めましょう。

※トレボン剤の使用は、随時防除も含めて2回以内です。

## 4 畦間かん水

- 開花期から9月上旬までの水不足は、莢数や百粒重の確保に大きく影響します。3日以上晴天日が続いたら、土壌の乾き具合に応じ、**畦間かん水**を行いましょう。
- 畦間かん水は短時間で行い、ほ場全体に水が行き渡ったら水口をしっかりと止め、**速やかに排水**してください。

### 畦間かん水の効果

1. 根粒活性の維持
2. しわ粒の軽減
3. 莢数や百粒重の確保  
(減収を防ぐ)